

天王岩 黒板(BB)フェイス

2016.8.24 rctK

長野の実家から帰京してからは、ずっと台風の影響から雨が続き、空いている日は雨のためほとんどクライミングができない状況であった。ようやく半日ほど時間が空き、青空も見えたので、御岳にボルダリングに出かけたが、山沿いは時折小雨が降り湿度が高く、ボルダラーのコンディションは何とか登れるという程度のものであった。蒸し暑さも手伝って、少しトライした程度で切り上げ、まだ時間があったので秋川に回り、天王岩のブラックボード(BB)周辺の整備をしてから帰宅する。この日、天王岩は不思議なことに、あちこちで雨になっているにも関わらず、岩は結露も少なくまずまずのコンディションであった。

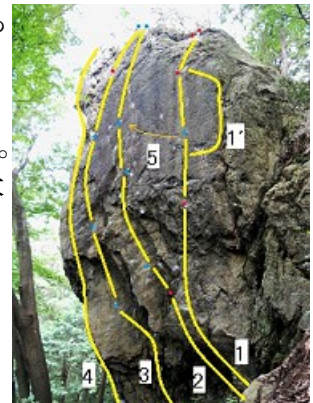
さて、BBフェイスは、垂直から微妙にかぶっているホールドの細かなきれいなフェイスで、悪そうな印象があるためか、トライするクライマーを見たことがない。トライされないため、全体に苔も発達してきて、特にBBIIは終了点が腐り、トライできる状態ではなくなっていた。

そこで、掃除をして整備をすれば、取り付くクライマーも出てくるのではないかと、との知人の意見で、今回BBフェイス全体を簡単に整備してみたので報告する。なお知人は、BBIは12aでも良いのではないかとこの意見であるが、私も限りなく12aに近いのではないかとこの感想である。

●整備状況の報告

(トボ参照。番号はトボのルート番号に対応している。赤点が新たに打った、またはリボルトしたボルト。青点が既存のボルト。)

1、BBII(5.11d) 終了点が腐っていたので撤去し新たに終了点を設置した。その際、終了点が少し上に上がり、クリップ手前で落ちると危険なので1本ボルトを追加した。1本目のRCCボルトもリボルトをした。ラインは直上していくが、核心下を右のクラック状に出て(1')回り込むとグレードは5.10dとなる。1本目のクリップ(以前のRCCボルト)は右の小さな切株でできていたが、切株が取れてしまったので、スティッククリップをするか、さもなくば、BBIの新たに打たれたボルトを1本目として使って登ると良い。



2、BBI(5.11d) 1本目のリボルトされたケミカルアンカーまでがちょっと遠いが、これは初登時は、出だしの少し上に切株があり、それが1本目だったためである。今回それを考慮して、切株のあった近くにボルトを設置した。なお、脆い部分が多く、結果的に少し右上になってしまったが、BBIとIIの両ルートで使用でき、出だしのガバでクリップできるので、位置的には良かったかとも思う。ラインは最後まで直上するが、度胸のない人は、左の「亀の子束子」の最後のボルトを使って登ると、ライン的にはきれいでないが、ちょっと安心できるかなと思う。

3、亀の子束子(5.10a) 最後のボルトが、手製の腐りかけたボルトだったので、リボルトした。終了点はBBIのものを使う。1本目が遠いが、スティッククリップでないときは、BBIの1本目から長いスリングでプロテクションを取ると安心である。

4、ミンミン(5.10d) ハングを越えてから、亀の子束子の上部を登るラインが「アブラゼミ」というルートだったが、その後最後までカンテを直上するラインができて、「ミンミン」となった。良く登られており、プロテクションも確りリボルトされているので、特に整備はしていない。

5、厚化粧(5.12a) この名前は、小池都知事が選挙期間中に揶揄されたからつけられたものではなく、昔、「フリーファン」に発表した時につけたものである。このラインは、BBIIの核心下から、BBI

の核心下まで細かなフェイスを左にトラヴァースし、BBIの核心を登るリンクルートであるが、名前の如く、ボルト乱打の厚化粧になってしまうので、昔、間に打たれたボルトをはずした。そのためポには載せられていない。今回熟考の末、復活しないことにした。

●その他

5番の「厚化粧」と同時になるが、昔、「フリーファン」に発表したルートに「守銭奴(5.11c)」がある。このラインは、「ニルバーナ」下部を登り、上部の核心下を左にトラヴァースして「ジョログモ」の上部に繋げるリンクラインである。なお、「ジョログモ」の最後のボルトが左上に移ったため下でクリップできなくなってしまった。合流してから棚に足を載せるまでのムーヴが意外といやらしく、落ちると降られて木に激突する可能性が高いので、もしトライする場合は、最後のボルトから長いランナーを垂らし、下でクリップしてからムーヴをこなすようにした方が良い。

他のルートに関しては、「エスパー」についてのみ記しておく。最近「エスパー」をトライするクライマーは左上のホールドを使い、左の棚に足を載せて登っているようである。初登時は左側のフェイスのホールドや棚は使わずハングをダイレクトに登っている。しかし、核心部で初登時に使用したフットホールドは欠けてしまったのではないかという話もあり、仕方がない面もあるのかもしれない。狭い岩場で何本もルートができると、どうしても限定気味になってしまうのは致し方がない点をご容赦願いたい。私としては、どのように登ってもらっても構わないが、オリジナルムーヴもぜひ試してもらいたいと願うところである。